

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792300234		
法人名	株式会社 ビオネスト		
事業所名	グループホーム笑楽 北畠(ユニット1) 【2ユニット総合評価結果である】		
所在地	大阪府大阪市阿倍野区北畠 1-23-22		
自己評価作成日	令和4年5月20日	評価結果市町村受理日	令和4年6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=2792300234-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人ば・まる
所在地	堺市堺区三宝町二丁131番地2
訪問調査日	令和4年6月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人お一人の個性を大切に考えており、当社のスローガンである「なりたい自分に」をモットーに、居室も1つとして同じ物はありません。オシャレな洋室、落ち着いた和室等のご用意があり、自分好みの空間でゆったりと過ごしていただいております。お食事に関してはこだわりがあり、お米は当社のお米マイスターが選定した玄米を導入し、毎日精米したお米を召し上がって頂いております。コーヒーは多種の生豆を仕入れ、その日に焙煎したコーヒーを提供し、風味や香りも楽しんで頂いております。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

生活の場を意識し、利用者個々の大切にしているもの、自身の生活を大切に、生活しやすいリラックスした環境作りに注力されています。24時間の訪問看護体制を確立しており、医療面での不安払拭に努められています。食べる事、食を大切にされており、基本となるお米にこだわり、美味しいご飯、美味しい食事を提供すること、利用者が食べたいものを食べられるように実現させるで、嚥下咀嚼機能の維持、健康保持に繋がるよう配慮されています。生活能力の維持向上を常に心がけ、自立の維持と、改善・向上に繋がる支援の提供が出来るよう、医療との連携も含め、利用者の生活を支える、生きる意欲を持てる支援の提供を目指し、取り組まれています。利用者との繋がり、絆の継続に配慮し、関係性を継続できる機会の創出に努められています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	【2ユニット総合評価結果である】		

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己評価	第三者評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に関しては、初期のOJTにて伝えており、職員が目にするところに掲示している。	法人の理念・行動指針を基に、利用者本位、利用者が今まで通りの生活に近い生活を行える事を目指されています。利用者・家族・職員皆が笑顔で過ごせる施設を目指し、職員全員で施設の目指すところについて、考え、意見の表出が行われています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で、地域のイベント等も中止されており、参加はできていない。入居者はスタッフと共に周辺などを散歩したり、近隣の商店へ買い物に行ったりして、地域での生活に馴染んでいただけのようにしている。	コロナ禍の制限下において、様々な制限がある中、積極的な地域交流は困難な状況であるが、可能な範囲で、地域ボランティアとの繋がりを活用し、近隣への散歩や買い物等、完全に遮断されないように努められています。制限解除に伴い、出来る事から拡充できるよう計画されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として、「あべのあんしんステーション」や「オレンジパートナー」の登録をしており、地域の見守り活動に参加している。また、管理者はキャラバンメイトとして認知症の人への理解を深めていただくため地域の方々への「認知症サポーター養成講座」の活動に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の会議は、コロナ感染防止の観点から、オンライン上で地域包括支援センターと繋ぎ、開催している。家族様や地域包括の方、入居者様からのご意見をいただき、議事録に記載し、スタッフにも周知している。	制限期間中も可能な範囲で、オンラインによる開催を継続され、行政や家族との意見交流に努められています。制限介助に伴い、参加者の拡充を予定されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の「介護保険事業担当課」とメールなどで連絡を取り合い、事故報告や施設運営に関わる事項等を相談している。	区の担当部署と必要なやりとりが行われ、地域包括支援センターと定期的に情報の共有、施設状況の提供が行われています。生活支援が必要な利用者についても、必用に応じて行政との定期的な情報共有や必要な相談等が行える体制が用意されています。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内に「身体拘束委員会」を立ち上げており、そこで話し合われた内容や、資料については全職員に周知するなどして、意識をもって取り組んでいる。	年4回の委員会開催があり、事例検討や拘束に繋がる事案の検討を行い、委員会の内容は、研修や職員会議で内容の共有が行われています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修にて「高齢者虐待防止」について学び、研修資料については全職員に周知するようにし、施設内で虐待が見過ごされないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	2名の入居者が後見人制度を利用している。外部の研修や施設内研修についてはまだ実施できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に見学、体験入居を設けており、不安や疑問点を解消していただけるよう心がけている。また、契約時には「契約書」「重要事項説明書」に基づいて丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には来訪時やお電話などにて、ご意見を頂戴し実践するようにしている。また、ご入居者様からのリクエストにお答えし、レクリエーションの企画なども行っている。	コロナ禍の制限下において、直接の聴取には制限があるため、電話や来訪時の機会を大切にし、意見聴取に努められています。利用者のやりたいこと、やってみたいことを大切にし、実現に向けた取組が行われています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の全体会議と個人カンファレンスなどを随時実施し、主体的に業務に取り組んでいただけるようし、意見を述べる機会を設けている。また、月1回以上のイベントレクリエーションには各職員が案を出し、企画している。	支援内容を振り返る際、積極的に職員からの意見表出を促し、職員全体で運営についての課題を含めた話し合いが行われています。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>各職員の評価については管理者が2か月に一度、職務評定を実施しており、半年に1度、面談を行い職場環境の条件や整備について、個々に話し合っている。管理者に関しては、運営管理のエリアマネージャーの評価と面談があり、適切な評価を受ける制度がある。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格取得制度を利用し、OFF-JTを積極的に受ける環境があり、広く募集もある。施設内研修は月1回実施し、各職員が持ち回りで担当することで主体性を持ってトレーニングを進めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他法人との交流は未だないが、同法人内で応援勤務などにて、交流することでサービスの向上に取り組んでいる。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人、ご家族様の見学や体験入居などを行い、出来る限り不安なく、安心してサービスを開始できるよう、傾聴している。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>見学やお電話での問い合わせ際にはご家族様の要望や困っていること等のお話を傾聴している。また、不安な事や疑問に対しても、その都度、回答している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>グループホームに入所することが今のご本人・ご家族にとって最善なのかを見極めるよう努めている。また、ご希望があれば、他サービスの利用も相談の上ご利用いただいている。</p>		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	衛生面、安全性に考慮しながら、ご本人が出来る家事は、職員や利用者同士が共に協力し、実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍でご面会の機会が少ないが、衣替え等のご協力いただき、出来る限り訪問頂いている。また、お電話でお話しする機会には詳細に近況をご報告したり、ご希望の方にはメールで写真をお送りしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で出掛ける場面は少ないが、大切にしてきた馴染みの方とのご面会は出来るだけ行っている。	コロナ禍の制限下において、通常の交流が困難な状況であるが、制限解除・制限緩和期間を踏まえ、可能な範囲での面会再開や外出等に取り組まれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全ユニットで集まりイベントレクなどを実施したり、個々での関係性など、その時々に応じた支援をし、入居者様同士の関りを増やして頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も関係者やご家族様等との情報交換に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の利用者との会話から思いや意向を把握している。意思疎通が困難な利用者様はご家族様より情報を収集し、意向に添えるよう努めている。	利用開始時に可能な範囲での収集を行い、利用開始後に会話等の中からも情報を拡充し、担当者が把握する事によって支援に反映出来るよう努められています。	利用者や家族の意向把握について、内容を拡充されると、さらなる支援の質の向上に繋がるかと思われます。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族・ご友人・担当ケアマネ等各方面からの情報収集に努めている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	iPad上のケア記録アプリにて一日の記録をしている。		
26	(10)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員は各入居者様を担当制にしており、担当職員を中心に管理者、ケアマネ、ユニット職員で3か月に一回のケースカンファレンスを行い、モニタリング、課題抽出や介護計画について話し合っている。	担当者を中心に複数職種複数職員による、定期的なカンファレンスが行われています。利用者の生活能力の維持向上に配慮した計画策定に努められています。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	iPad上のケア記録アプリにて、日々の記録を作成している。また、職員間の申し送りノートを活用し、情報共有を行っている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の希望があれば、その時々ニーズに応じて柔軟に対応している。		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などで、地域包括支援センターの職員や家族などから情報を集めている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は殆どが提携医療機関になっているが、希望があれば、かつてのかかりつけ医を受診いただいている。他専門医の診察は家族同伴にて通院頂いている。	かかりつけ医は、利用者の希望で決定されています。提携医療機関は24時間対応で指示対応が可能な体制になっています。提携医療機関による月二回、精神科医師による月一回の訪問診療が行われています。希望の方には、訪問歯科による訪問診療が月二回～四回行われています。訪問薬剤管理指導体制が実施されており、適切な服薬管理に努められています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の看護師や訪問看護の看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時から退院までご家族様と連絡を密に取り、現状把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に「契約書」及び「重要事項説明書」にて説明している。	重度化終末期の指針が明示されており、契約時に説明同意が得られています。看取り対応に対する勉強会の開催されており、終末期対応に対する支援向上に努められています。	重度化、終末期における意向把握や話し合いを、早期から取り組まれることが望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	提携医療機関と連携し、急変時や事故発生時のチェックリストを各階に設置しており、各職員が周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	同じ建物内のデイサービスと協力して、避難訓練を行っている。	同一法人他施設と協働での訓練が実施されており、机上訓練や想定訓練を積み重ね、マニュアルやフローチャートの拡充に努められています。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様に対して敬意をもって接し、常に失礼のないような言葉遣いがに心掛けている。また、月1回の会議にて接遇がきちんと出来ているか職員同士で情報を共有している。	年一回の接遇研修が行われています。月一回、接遇を振り返る機会を持たれており、職員相互チェックによる質の向上に努められています。利用者楽しく明るくすごして頂くため、それらを妨げる言動を排除できるように努められています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その時にご利用者様が望んでおられる事を尊重して実施していただくよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日程が決められていても、ご利用者様の意思を尊重し、ご希望に沿うような支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思疎通の可能な方は、入浴時や起床時の着替えにはご自身で衣類の選択をしていただけるよう支援している。また、女性の方にはご自身の化粧水等を使用して整容していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方にはテーブルを拭いて頂いたり、食後の下膳や食器洗い等を実施して頂いている。また、ご家族に馴染みのある食器などを準備して頂き食事を楽しんで頂いている。	お米にこだわり、美味しいご飯が食べられるようにこだわられています。食べられる事、しっかり食べる事が、生活能力の維持向上に繋がるという考えから、利用者の食に対する意欲と楽しみを育めるよう努められています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の体調などに合わせて、こまめな水分補給を心掛けている。また、個人の趣向に合わせて補水しやすい物を提供している。食事形態に関しても、個人の状態に合わせて変化させ、提供している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご利用者全員の口腔ケアを行い、入れ歯洗浄は職員が仕上げを行っている。訪問歯科と連携し、口腔内の清潔を定期的に確認して頂いている。		
43	(16)		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者様のサインや行動、また排泄間隔を把握しトイレ誘導を行っている。	排泄自立の維持向上を意識した排泄支援に努められています。安易に医薬品に走ることなく、食の工夫や改善にも取り組まれており、自然な自立した排泄の維持に取り組まれています。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療機関と連携し、指示のもと、下剤コントロールや補水の強化に努めている。また、ウォーキングなどの運動も取り入れている。		
45	(17)		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様に確認し、希望の時間帯に入浴して頂いている。また、季節の「柚子湯」や「菖蒲湯」実施し、楽しんでいただいている。	利用者の様子や意向を尊重した入浴タイミング確保に努められています。利用者が積極的に入浴したいと思えるような、入浴支援を心がけられています。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室にご利用者様が自宅で使用されていた、家具などを配置し、落ち着いた環境で休んで頂いている。寝具の清潔保持にも努めている。日中は出来るだけ活発に過ごしていただけるようにしている。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関と連携し把握している。お薬の配達日には薬剤師に直接確認している。また、お薬の変更時には直接医師より注意点などの指示も頂いており、申し送りノートにて職員に周知している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の好きな物を尊重し、自由に楽しんでいただけるよう、支援している。また、ご希望の方には自家焙煎のコーヒーも提供し気分転換を図っている。		
49	(18)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は控えていたが徐々に機会を設け、近所の散歩などを実施している。	コロナ禍の制限下において、自由な外出は困難な状況ではありますが、車両利用で車窓から出かけた先の場所を見たり、制限解除に伴って、感染症対策に留意した上で外出機会の拡充に努められています。	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は金庫でお預かりしており、その事を利用者様にもお伝えしている。必要時にはスタッフが買い物に同行している。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今現在、手紙や携帯電話の支援は行っていないが、ご家族から施設に電話が掛かってきた場合はご本人に繋ぎ、お話ししている。		
52	(19)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは音、光、雰囲気など常に生活感を保ち、利用者様が創作した季節の壁画や、作品を飾り楽しんで頂いている。	ベランダやベンチ等、屋外共有空間を活用することによって、温度や季節を感じて頂ける機会の確保に努められています。壁画や作品の製作によっても、季節感を意識して頂けるよう配慮されています。リビングや他の共有空間、ベランダ等、利用者個々が快適に過ごせる場を選択できる環境作りがなされています。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには娯楽用具を置いたり、テレビは好みの動画を見られるようにし、快適に過ごしていただけるようにしている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様にご自宅で使われていたタンスや引き出し、ぬいぐるみ、写真などお好きな物を置いて頂いている。	居室レイアウト自体が全ての部屋で異なり、和室洋室等様々なタイプから利用者の希望に沿った居室選択ができるよう努められています。様々なタイプの居室から選択することにより、より従前の生活に近い環境作りに繋げられるよう配慮されています。利用者は自身の嗜好に沿った、家具・備品・装飾品が持ち込まれ、くつろぐ空間作りに繋がられています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活リハビリとして、ご自身で出来ることは取り組んでいただき、自立した生活が送れるよう、手すりの設置や分かりやすくトイレの掲示などをしている。		